

モニターツアー「ふくしまみちさがし情熱がっこう」開催！

●9月14日(土)「浪江AnotherSky編」が開催されました



OCAFEの岡さんから震災以降の暮らしなどいろいろな話を伺いました

避難指示解除後の地域の再生について学ぶ、環境再生プラザの「ふくしまみちさがし」企画。今年は参加者が情報を発信するプログラムで県内外から24名が参加されました。請戸漁港、請戸小学校ほか浪江町内を巡り、震災や津波の被害とこれまでの再生について話を聞き、発信したい情報について話し合いました。参加者からは「漫然と聞くのと異なり、その結果、参加者同士で活発な意見交換ができた」といった感想がありました。参加者がまとめた取材記事は、後日インターネットメディア「いわき経済新聞」に掲載される予定です。

●10月27日(日)「阿武隈山地Footpath編」参加者大募集！

今年の「ふくしま“みち”さがし」は、「情熱がっこう」という名で、担任と一緒に各地を巡り、除染後の今を「知る・見る」から、さらに理解を深めて、参加者の視点で情報発信していただくバスツアーです。

第2弾の『阿武隈山地Footpath編』は、越智小枝さんとともに川俣町と飯館村を訪れます。川俣町では、「女神山を愛する会」代表の蓮沼昇さんのガイドで女神山を散策します。飯館村では、8年ぶりに再開した「気まぐれ茶屋ちえこ」や、畜産農家の山田さんの牛舎などを訪れます。阿武隈山地での自然と人のかかわりに触れてみませんか。



「うつくしまふくしま百名山」の一つである女神山

■開催日：2019年10月27日(日) ■集合場所：JR福島駅西口バスターミナル ■申込締切：2019年10月16日(水)
■参加費：2,000円(昼食代含む) ■集合時間：午前8時30分
詳しくは、ホープツーリズムホームページ(<https://www.hopetourism.jp/tour.html?id=36>)をご覧ください。

「子育てカフェ」について

子育て世代を対象に放射線の疑問や不安を気軽に話したり聞いたりする「子育てカフェ」を開催しています。これまで川俣町、田村市、福島市などで開催してきました。次回は川俣町での開催を予定しています。放射線について不安がある、いまさらだけど聞いてみたいなどありましたら、ぜひご参加ください(参加無料)。

★あなたの地域でも「子育てカフェ」を開きませんか？

福島県内で、ご関心のある団体や地域サークルの方、お気軽にご連絡ください。

■開催日時：2019年10月16日(水)10時～12時
■場所：川俣町中央公民館
■申込締切：10月11日(金)
■申込み先：r01kosodate@nsra.or.jp
■問合せ先：放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター中通り事務所
☎024-563-4097

環境省の情報発信拠点

●中間貯蔵工事情報センター



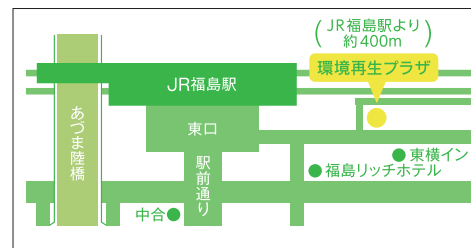
■所在地 福島県双葉郡大熊町
大字小入野字向畑 256
■開館時間 10:00～16:00
■休館日 日曜日・月曜日、年末年始
(月曜日が祝日の場合は翌平日)
■電話番号 0240-25-8377
中間貯蔵施設工事について紹介しています。
毎月バスによる中間貯蔵施設見学会(事前申込制)を開催しています。

●特定廃棄物埋立情報館 リプルンふくしま



■所在地 福島県双葉郡富岡町
大字上郡山字太田 526-7
■開館時間 9:00～17:00
■休館日 月曜日、年末年始
(月曜日が祝日の場合は翌平日)
■電話番号 0240-23-7781
特定廃棄物の埋立処分事業について紹介しています。毎週末には参加型イベントや実験教室なども開催しています。

●環境再生プラザ



■所在地 福島県福島市米町
1-31 1階
■開館時間 10:00～17:00
■休館日 月曜日、年末年始
(月曜日が祝日の場合は翌平日)
■電話番号 024-529-5668
福島県環境再生への取り組みなどの情報を紹介しています。常駐している専門家による解説や相談などを行っています。

ふくしま環境再生 Vol.6



福島市立立子山小学校の子どもたち

「ふくしま環境再生」では、環境省が進める環境再生事業や地域活性化事業などの情報を定期的にお知らせします。

地域社会と連携し放射線について理解をすすめています

環境省では、福島の子どもたちが風評に負けないよう、自分たちのことを聞かれたときに自分の言葉で話ができるように、自治体/教育委員会、地域で活動する団体などと連携しながら取り組んでいます。

● 子どもたちに向けて

放射線の授業などに対して専門家を派遣するとともに、地域社会の協力もいただきながら、学習を深めることができるようサポートをしています。



広野町立広野中学校

Jヴィレッジの協力のもと、震災から復興に向けたこれまでの取り組みを学習。環境再生プラザから派遣された専門家とともに放射線を測定し、日本国内の他の地域などとあまり変わらないことなど、身の回りの放射線の現状を学びました。

● 教員に向けて

教員を対象として、学校の放射線授業で「何をどのように教えたらよいのか」などについて、研修のサポートをしています。



福島市教育委員会

放射線についての状況や健康影響などの講義、霧箱や紙芝居など授業で使える4つの実習、授業実践例の紹介、震災体験から未来を考えていくことの大切さなどの講演、ワークショップ、で構成するプログラムを実施しました。

● 保護者に向けて

地域団体などと協力し、子育て世代を対象として、なかなか話しにくい放射線についての不安や今さらだけれど聞いておきたいことなど、気軽に話せる場を提供しています。



地域サークルなど

参加された方からは、現在の線量では次世代や低線量被ばくの影響が考えられないことなど、「放射線についてもややも感じていたことが、参加したことで、すっきりして納得できました」などの感想がありました。

子どもたちの未来に向けて

■ 福島市立平田小学校 角田 直子 先生

福島市の放射線教育推進校に指定された本校では、放射線についての授業を行っています。

最初のステップとして「なぜ放射線について学ぶのか」を理解するため、大熊町出身の語り部の渡部千恵子さんから「震災で何が起こったのか」のお話を聞きました。次に、専門家を招き、校庭で放射線測定を体験したり、座学で放射線の基礎知識を学ぶとともに、風評被害について考えました。子どもたちからは、「平田小の放射線量は高い」「野菜や果物を育てる土も除染をしているので大丈夫」「ほかの国より厳しい検査をしているので、福島産の食べ物を買ってほしい」などの声があがっています。



今後は、地域の農家の方からお話を聞いたり、家庭で育てた野菜の放射線量を測定するなど、今の自分たちにできることを考え、子どもたちの未来に向けて、自分の言葉で話し（発信）ができるようになってもらいたいと考えています。

■ 福島県教育庁義務教育課 主任指導主事 西牧 泰彦さん

今年4月に中高一貫教育の「ふたば未来学園中学校」が開校し、未来創造型の教育が進みつつあります。一方で、根拠のない風評や、汚染廃棄物、使用済燃料、除染土壌の処分場、代替エネルギー開発など、子どもたちの世代に託さなければならない困難な課題があります。

福島に生きる児童生徒一人一人には、自らの言葉で自らの体験や福島県の正しい現状を説明し発信できる力を育むことが必要であり、児童生徒の実態や課題、地域の実情に応じて、関係機関と連携して、発信型の放射線教育を推進しています。放射線への科学的な理解を促進し、いじめや偏見、風評被害を払拭する一助とするとともに、未来を拓く地域社会の一員として、安全・安心な社会づくりに貢献しようとする態度を育てていきたいと考えています。



pickup 子ども向け参考資料のご紹介

環境省では、子ども向けにわかりやすい学習ツールとして、紙芝居や小冊子など参考資料を作成しています。

小学校低学年向け

● 紙芝居「ふくろう先生の放射線教室」

原発事故の発生からその後の除染などの対策と身の回りの放射性物質、食べ物の検査など、放射線の性質もふまえながら教えることができる紙芝居です。シリーズとして3巻あり、児童と対話をしながら読み進められるようになっています。



● 調べてなっとく放射線



除染や放射線の基礎的情報をわかりやすく説明している小冊子です。

小学校中学年以上向け

● スライド資料「学んで、考えてみよう 除染・放射線のこと」



これまでの放射性物質の状況とその対策を、時系列で学ぶことができます。113枚のパワーポイントのスライドで構成されており、説明したい内容に応じて様々な組み合わせることができます。

● データでなっとく放射線 まんが なすびのギモン

除染や放射線に関する日常のギモンについて、まんがでわかりやすく、データに基づいて詳しく解説している小冊子です。



身の回りの放射性物質編

健康影響編

食品編

環境再生のあゆみ編

これらの参考資料は、環境再生プラザホームページでダウンロードすることができます。他にも、参考資料や動画なども掲載していますのでご覧ください。

